

在日留学生の学習行動に関する一考察

—私立 A 大学を事例として—

李 憶 南 楊 丹 呉 彤

1. 問題の所在

本研究は、質問紙調査の結果を踏まえ、日本における外国人留学生の出身階層や大学に行く前の学習行動の分析を通して、大学（学部）に在籍している外国人留学生の学生像および学習行動の特徴を明らかにすることを目的とする。

「日本を世界により開かれた国とし、アジア、世界の間のヒト・モノ・カネ、情報の流れを拡大する『グローバル戦略』を展開する一環として」、平成 20 年に「留学生 30 万人計画」が策定された。この計画を実現するため、「日本留学への関心を呼び起こす動機や情報提供から、入試・入学・入国の入口改善、大学等の教育機関や社会における受入れ体制の整備、卒業・修了後の就職支援等」の施策が講じられた。その結果、令和元年には日本における留学生数は約 31 万に上った。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、令和 4 年 5 月 1 日現在の留学生数は 25 万人を下回っている。2023 年 3 月 17 日に開かれた第 5 回教育未来創造会議では、岸田文雄総理大臣は、2033 年までに、外国人留学生（以下、留学生）を 40 万人にという目標数を掲げた。つまり、今後 10 年間、留学生数は約 7 割増加する見込である。

また、独立行政法人日本学生支援機構（JAS-SO）が実施した「2022 年度外国人留学生在籍情報調査」の結果により、大学（学部）に在籍している留学生数は最も多く、72,047 人となっており、全体の約 3 割を占めている。そのうち、国立大学の学部 に在籍している留学生数は

約 1 割に過ぎず、8 割以上の留学生が私立大学に在籍していることを判明した。それに対して、国立大学の大学院に在籍している留学生数は 6 割を超えている。『大学ランキング 2023』により、留学生の受入数上位校は、日本経済大学（2952 人）、立命館アジア太平洋大学（2422 人）、早稲田大学（2049 人）、立命館大学（1602 人）、東京福祉大学（1530 人）となっている（2021 年。正規の学部留学生で聴講生、研究生、交換を含まない）。留学生比率の上位校は、愛国学園大学、至誠館大学、大阪観光大学、鈴鹿大学、日本経済大学であり、それぞれの留学生比率は 84.6%、70.3%、67.5%、59.4%、55.2% である。なお、留学生数が多い立命館アジア太平洋大学は 44.3%、東京福祉大学 34.8% であり、留学生比率が高いのに対して、早稲田大学は 5.4%、立命館大学は 4.9% となっている。さらに、河合塾が公開している大学のボーダー得点率・偏差値を調査した結果、早稲田大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学を除き、上記の大学のボーダー偏差値はいずれも「BF」（ボーダーラインが設定できなかった、入試の難易度が低いことを表す）と表示されている。つまり、多くの留学生は入学難易度の低い私立大学に在籍していることが考えられる。

難易度の低い大学及びボーダーフリー大学に在籍している学生を対象とした研究は一定程度蓄積されている（葛城 2007・2012、宇田 2023）にもかかわらず、そのような大学における留学生を特化した研究は管見の限り見当たらない。

つまり、大学（学部）に在籍している留学生の特徴がまだ解明されていない。

以上を踏まえ、本研究は地方私立 A 大学における留学生を対象に実施したアンケート調査の結果に基づき、大学に在籍している留学生の学生像をより詳細に明らかにした上で、留学生の学習行動を解明したいと考える。

2. 調査対象の属性

最初に調査対象の属性について述べたい。本調査は 2023 年 7 月 19 日から 8 月 15 日にかけて、オンラインアンケートの形で行われた。調査対象は、私立 A 大学の経営学部に所属する留学生である。A 大学は、偏差値 40 未満の入学難易度の低い大学であり、4000 人以上が在籍する中規模校である。現在、留学生の比率は約 1 割だが、今後さらに大学の国際化を加速し、積極的に留学生を受け入れる方針を掲げられている。

さて、本稿で用いたデータの概要について述べる。回答者数は 102 名である。有効回答者数は、94 名であり、有効回答率は 92% である。その中で男性の割合は 74.5% を占めており、女性は 25.5% である。また、学年から見ると、一年生の割合は 68.1% に達しており、二年生は 17.0%、三年生は 9.6%、四年生は 5.3% というように、一年生に偏っているデータとなっている。

3. 在日留学生の特徴

在日留学生の学習行動について検討する前に、まず在日留学生の特徴について説明する必要があるだろう。なぜなら、出身階層や大学に行く前の学習行動などは、学生の属性を代表する重要な指標だけではなく、大学生の学習意識に影響を与える要因だと考えられるからであ

る。そこで、本節では、出身階層および、大学に行く前の学習行動という二つの側面から、在日留学生はどのような学生像を持っているのかを解明したい。

(1) 出身地および両親の学歴、職業

まず、表 1 を見てみよう。出身地については、「北京、上海、広州、深圳以外の省会都市」という項目に 29.8% と、最も高い数値となっている。「北京、上海、広州、深圳」という項目を合わせてみれば、大都市の出身者の割合が 44.7% と、ほぼ半数となっている。その一方で、「農村部」と回答したものの割合は最も低く、3.2% となっている。つまり、調査対象者である在日留学生の出身地は都市部に偏っていると考えられる。

次に、両親の学歴について回答した結果は表 2 となる。表 2 が示しているように、「父親の最終学歴」では、「高校卒業」が占める割合は 21.3% となっており、「小学校卒業」と「中学校卒業」という項目を合わせてみれば、その割合が 39.4% となっている。つまり、父親が高校卒業以下の者はおよそ 4 割であり、高校卒業以上の者の割合は約 6 割に達している。「母親の最終学歴」にも同じ傾向が見られた。

最後に、両親の職業についての回答状況を整理した結果は表 3 となる。表 3 からわかるように、父親の職業に関して、「個人営業者とサービス業従業者」と「大中企業の管理職と個人企業主」は 33.0%、26.6% となっており、より高い値となっている。また、「政府機関あるいは事業単位」に 20.2% と、決して低い数値と言えないだろう。母親の職業にも同じ傾向が見られた。つまり、在日留学生の両親の職業は「個人営業者とサービス業従業者」と「大中企業の管理職と個人企業主」および「政府機関あるいは事業単位」に偏っていると推測できよう。

表1 出身地

北京、上海、広州、深圳	14.9
そのほかの省会城市	29.8
それ以外の二線都市（例：大連）	20.2
三、四線の中小都市	22.3
城镇	9.6
農村部	3.2
合計	100.0 (94)

表2 両親の学歴

	父親の学歴	母親の学歴
小学校卒業	4.3	5.5
中学校卒業	13.8	14.3
高校卒業	21.3	18.7
中専卒業	5.3	7.7
大専卒業	13.8	18.7
大学卒業	31.9	30.8
大学院卒業	4.3	4.4
そのほか	5.3	0.0
合計	100.0 (94)	100.0 (94)

表3 両親の職業

	父親の職業	母親の職業
政府機関あるいは事業単位	20.2	14.9
大中型企業の管理職と個人企業主	26.6	13.8
専門技術要員（教師、医者、科学技術、記者など）	7.4	14.9
行政事務要員	0.0	4.3
個人営業者とサービス業従業者	33.0	35.1
工場の労働者	4.3	3.2
無職	2.1	8.5
其他	6.4	5.3
合計	100.0 (94)	100.0 (94)

(2) 出身校と大学に行く前の学習行動

質問紙に、日本の大学に入る前の出身校について設問した。その結果として、78.72%の留学生は普通高校出身であり、21.28%の者は中等専門高校出身だったことが分かった。また、留学する理由について、「中国の大学入試統一試験の競争が激しいから」という項目に、「とてもあてはまる」と回答した者の割合が42.6%と、「少しあてはまる」を合わせてみれば、肯定的な回答をした者の割合が8割と高まっている。

さて、質問紙に留学生の大学に行く前の学習行動および生活習慣について、四件法で設問し

た。それを単純集計で分析した結果は表4となっている。まず、学習意識の特徴について、勉強する意識が高いことが分かった。「好きな科目がある」という項目に、「とてもあてはまる」と回答した者の割合は47.9%とほぼ半数に達している。「少しあてはまる」を合わせてみれば、83.0%となっており、8割を超えている。また、「勉強方法を重視する」と「成績を重視する」という項目に、肯定的な回答をした者の割合が両方とも6割を超えている。さらに、「授業中にまじめに勉強しようとする」という項目に、「少しあてはまる」と回答した者の割合が最も高く56.4%と達している。ここか

表 4 大学に行く前の学習と生活

	とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
1 学級委員(班委など)を多くやった	26.6	34.0	34.0	5.3	100.0 (94)
2 進学塾に通うことが多くあった	25.5	28.7	37.2	8.5	100.0 (94)
3 家庭教師を利用することが多かった	18.1	22.3	45.7	13.8	100.0 (94)
4 ボランティア活動に多く参加した	14.9	33.0	41.5	10.6	100.0 (94)
5 よく学級の「優秀学生」(三好学生)に選ばれる	11.7	33.0	45.7	9.6	100.0 (94)
6 小説がよく読んでいた	33.0	34.0	26.6	6.4	100.0 (94)
7 ゲームがよくやっていた	23.4	41.5	30.9	4.3	100.0 (94)
8 ティックトックなどをよくやっていた	24.5	33.0	26.6	16.0	100.0 (94)
9 友達とよく遊びに行っていた	41.5	39.4	14.9	4.3	100.0 (94)
10 授業中にまじめに勉強しようとする	10.6	56.4	28.7	4.3	100.0 (94)
11 成績を重視する	19.1	47.9	29.8	3.2	100.0 (94)
12 勉強方法を重視する	18.1	46.8	30.9	4.3	100.0 (94)
13 好きな科目がある	47.9	35.1	14.9	2.1	100.0 (94)

ら、留学生達がまじめに勉強しようとする姿がうかがえよう。

次に、授業外の生活について、遊び志向が強いことが分かった。「友達とよく遊びに行っていた」という項目に、「とてもあてはまる」と回答した者の割合が41.5%になっており、「少しあてはまる」を合わせれば、80.9%と、かなり高い値となっている。また、「小説を読んでいた」、「ゲームをよくやっていた」及び「ティックトックなどをよくやっていた」という三つの項目に、肯定的な回答をした者の割合をみれば、いずれもほぼ6割となっている。一方で、「進学塾に通うことが多くあった」や「家庭教師を利用することが多かった」には、肯定的な回答をした者の割合がより低いことが分かる。ここから、進学塾に通うことより、友達と遊んで、ゲームや小説で満喫し、授業外の時間を過ごそうとする留学生達の意識が読めるだろう。

4. 大学での学習行動

本節では大学での学習行動、および大学での

生活という二つの面から在日留学生特徴について述べる。質問用紙は「とてもあてはまる」から「全くあてはまらない」の四件法で回答を求めた。

(1) 大学での学習行動

ここでは、表5の大学での学習行動についての単純集計の結果を分析したい。まず、大学の授業に対して肯定的な回答が多いことが分かる。「大学の授業では幅広い知識を得ている」や「大学の授業では専門的な知識を得ている」という二つの項目では、「とてもあてはまる」や「少しあてはまる」と回答した者は8割を超えている。また、「興味を持つ授業がある」に「とてもあてはまる」と回答した者は39.4%であり、「少しあてはまる」を合わせれば88.3%になる。すなわち、留学生は授業に対する評価が非常に高いことが分かった。その一方で、授業中の逸脱行為があることが分かる。「授業中で勉強と関係ないことをする」に、「少しあてはまる」と回答した者は46.8%であり、「とてもあてはまる」を合わせれば、52.1%と、半数を超えた。また、「授業中で私語をすることが

表5 授業中の学習行動について

		とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計
1	よく予習復習する	11.7	51.1	34.0	3.2	100.0 (94)
2	授業はできるだけ休まないようにしている	45.7	43.6	9.6	1.1	100.0 (94)
3	興味を持つ授業がある	39.4	48.9	9.6	2.1	100.0 (94)
4	授業内容について質問することがある	12.8	37.2	41.5	8.5	100.0 (94)
5	きちんとノートを取りながら授業を聞いている	17.0	51.1	27.7	4.3	100.0 (94)
6	授業中で私語をすることが多い	7.4	35.1	51.1	6.4	100.0 (94)
7	大学の授業では幅広い知識を得ている	39.4	48.9	10.6	1.1	100.0 (94)
8	大学の授業では専門的な知識を得ている	38.3	48.9	11.7	1.1	100.0 (94)
9	卒業に必要な授業しか取っていない	38.3	52.1	8.5	1.1	100.0 (94)
10	自分が成績を重視している	34.0	52.1	12.8	1.1	100.0 (94)
11	大学での勉強は意味がないと思う	6.4	23.4	48.9	21.3	100.0 (94)
12	自発的に自習を行っている	13.8	27.7	47.9	10.6	100.0 (94)
13	授業中でよく居眠りをする	2.1	17.0	53.2	27.7	100.0 (94)
14	授業中で授業内容と関係ないことを勉強する	2.1	35.1	48.9	13.8	100.0 (94)
15	授業中で勉強と関係ないことをする	5.3	46.8	41.5	6.4	100.0 (94)
16	よく友達と専門知識について討論する	8.5	55.3	34.0	2.1	100.0 (94)
17	よく図書館を利用する	9.6	30.9	44.7	14.9	100.0 (94)
18	勉強のために、よくインターネットを利用する	31.9	52.1	13.8	2.1	100.0 (94)

多い」に「少しあてはまる」と回答した者は35.1%であり、「とてもあてはまる」を合わせれば、42.6%となっており、決して低い数値とは言えないだろう。

また、現在の大学生は出席と成績を非常に重視していることも分かる。「授業はできるだけ休まないようにしている」に「とてもあてはまる」と回答した者は45.7%である。「少しあてはまる」を合わせれば、89.4%となる。「自分が成績を重視している」に「少しあてはまる」と回答した者の割合は52.1%であり、「とてもあてはまる」を合わせれば、8割を超えた。すなわち、在日留学生在が成績を重視し、できるだけ出席しようとする姿がうかがえよう。

最後に、授業や勉強に対する態度についてである。「よく友達と専門知識について討論する」

に「少しあてはまる」と回答した者は55.3%と、半数を超えている。さらに、「勉強のために、よくインターネットを利用する」に「少しあてはまる」と回答した者は52.1%となっており、「とてもあてはまる」を合わせれば、84.0%に達している。また、「きちんとノートを取りながら授業を聞いている」に「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせれば68.1%となる。「よく予習復習する」に、「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせれば6割を超えている。予習復習し、ノートを取ったりして、積極的授業勉強をするという留学生のありかたがうかがえよう。また、専門知識について友達と討論したり、インターネットを活用して専門知識について調べたりするという、彼、彼女らの勉強に高い意識がうかがえよう。

表 6 大学での生活

	とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない	合計	
1	よく旅行に行く	21.3	37.2	35.1	6.4	100.0 (94)
2	よくカラオケ行く	10.6	26.6	47.9	14.9	100.0 (94)
3	新しいファッションを追っている	11.7	38.3	40.4	9.6	100.0 (94)
4	よく美術館や博物館やコンサートなどに行く	10.6	22.3	56.4	10.6	100.0 (94)
5	毎日ゲームをする	37.2	36.2	22.3	4.3	100.0 (94)
6	よく運動する	19.1	43.6	29.8	7.4	100.0 (94)
7	よく友達とパーティーをする	25.5	43.6	27.7	3.2	100.0 (94)
8	授業以外の時間を利用し、資格勉強をすることがある	11.7	42.6	38.3	7.4	100.0 (94)
9	部活に積極的参加している	11.7	22.3	52.1	13.8	100.0 (94)
10	アルバイトにたくさんの時間をかけた	6.4	19.1	47.9	26.6	100.0 (94)
11	できるだけ家でゴロゴロしたい	40.4	36.2	16.0	7.4	100.0 (94)
12	アニメがよくみる	13.8	33.0	38.3	14.9	100.0 (94)
13	よく読書をして、自分を充実させる	24.5	38.3	30.9	6.4	100.0 (94)
14	時事問題について関心がある	24.5	41.5	28.7	5.3	100.0 (94)
15	よくラグビーや野球などの試合に行く	6.4	19.1	52.1	22.3	100.0 (94)

(2) 大学での生活

在日留学生の大学での生活について、表6のように回答を求めた。まず、生活習慣について、「できるだけ家でゴロゴロしたい」に「とてもあてはまる」と回答した者の割合は40.4%と達している。「少しあてはまる」を合わせれば、76.6%と7割を超えている。ここから、在日留学生の在宅志向が高いことが分かる。

また、「毎日ゲームをする」に「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせれば、73.4%となっている。「よく読書をして、自分を充実させる」に「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を回答した者の割合が6割を超えている。「授業以外の時間を利用し、資格勉強をすることがある」に、「少しあてはまる」を回答した者は42.6%であり、「とてもあてはまる」を合わせれば、5割を超えている。また、「時事問題について関心がある」に、「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせると、6割を超えている。ここから、在日留學生は、ゲームしたり、勉強したり、本を読んだりして、在宅時間を楽しもうとする姿がうかが

えよう。

最後に、「アルバイトにたくさんの時間をかけた」に「とてもあてはまる」と回答した者の割合は6.4%しかない。一方で、「よく友達とパーティーをする」という項目に、「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせると、ほぼ7割になる。「よく旅行に行く」に「とてもあてはまる」と「少しあてはまる」を合わせれば、ほぼ6割になる。ここから、アルバイトや部活に関心がより低い、旅行や友達とパーティーしたりして、楽しく留学生生活を過ごそうとするという、在日留学生の意識がうかがえよう。

5. まとめと考察

本稿は単純集計の結果を分析することにより、在日留学生の属性や大学での学習行動の意識について検討してきた。考察点は主に以下の3点である。

第一点として、在日留学生の出身階層が高いことが推測できよう。出身地からみれば、9割

以上の者は都市出身であり、その中で大都市いわゆる、省会都市出身者の割合はほぼ半数に達している。また、両親の学歴からみれば、6割以上の者は「高校卒業」以上の選択肢を回答した。さらに、両親の職業は「個人営業者とサービス業従業者」と「大中企業の管理職と個人企業主」および「政府機関あるいは事業単位」に偏っている。つまり、在日留学生の出身階層はかなり上の方である。

第二点は、調査対象である在日留学生の中で、約3割の者の出身校は中等専門学校という結果に注目してほしい。中等専門学校は職業高等中学や中等専門学校、技術工業学校と大きく三つに分類されており、学生が専門技術や技能を身につけ、卒業後に就職することを前提としている中等教育機関である。さらに、2022年5月に修訂された新たな『職業教育法』では、「大力に職業教育を発展し、普通高校と中等専門高校それぞれの生源を確保し、調和に発展させる」という方針が定められた。このような背景を考慮すれば、3割は決して低い数値とは言えない、むしろ非常に高いと考えられる。この結果は、中国の統一試験の競争の厳しさや教育公平の問題を示唆しているだけでなく、現在中国では中等教育段階で実施されている職業教育の課題についても提示している。

第三点は、在日留学生は、授業に肯定的な意識を持っているものの、授業中に逸脱行為が存在しているということである。彼らの学習行動が形骸化している可能性が考えられる。また、大学での生活面では、留学生は高いオタク意識を持つことがわかった。それにもかかわらず、アルバイトや部活というような日本特徴的な学園活動より、友達と遊んだり、旅行したりすることに対する意識がより高い。つまり、在日留学生は快樂主義という傾向がある。

最後に、本発表の限界と課題について述べたい。本稿の分析により得られた知見はあくまで

も、単純集計の結果から見られた傾向であるが、在日留学生の属性や学習行動と生活を概観するためには、意義があると言えよう。しかし、彼・彼女らの特徴をさらに明確に解明するためには、変数間の相互作用を考慮し、さらに多元的な分析が必要だとされている。これについて別稿で論じたい。

本論の一部は、中国四国教育学会第75回大会で発表したものである。

引用参考文献

- 1) 葛城浩一 (2007) 「Fランク大学生の学習に対する志向性」『大学教育学会誌』29 (2)、87-92頁。
- 2) 文部科学省 (2008) 『「留学生30万人計画」骨子の策定について』
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1420758.htm (閲覧日: 2023年11月8日)
- 3) 葛城浩一 (2012) 「ボーダーフリー大学が直面する教育上の困難—授業中の脱逸行動に着目して—」『香川大学教育研究』9、89-103頁。
- 4) 大学ジャーナル「大学ランキングからはわからない大学の實力 第一回留学生からグローバル化を読みとる」<https://daigaku-j.jp/ren-sai/713/> (閲覧日: 2023年11月8日)
- 5) 呉彤 (2020) 「中国における『三本大学生』の学習行動: 遼寧省を事例として」『教育学研究ジャーナル』25 (0)、33-43頁。
- 6) 呉彤 (2020) 「中国における『三本大学生』の大学生生活」『教育学研究紀要』66、483-488頁。
- 7) 朝日新聞 (2022)、『大学ランキング2023』
- 8) 宇田響 (2023) 「ボーダーフリー大学生に学習習慣を身につけさせるのがなぜ困難なのか」『教育学究ジャーナル』第28巻、63-72頁。